

広島県新型コロナウイルス感染症対策専門員会議 提言

令和 3 年 8 月 1 6 日

1 患者発生動向及びステージ区分の評価について

- 参考指標である直近 1 週間の新規報告者数（人口 10 万対）の速報値は、県全体で 35.9 人とステージⅣの水準（25.0 人）を上回っており、また、療養者数（人口 10 万対）が 41.8 人、入院率が 22.5%とステージⅣの水準にある。
- 夏休み、帰省等による県外往来増加に伴い、広島市、福山市、三原市のほかその周辺地域にも感染の拡大が見られる。
- 県内のデルタ株スクリーニング検査陽性率は、約 57%となっており、感染力の強いデルタ株への置き換わりが進んでいる。
- 7 月 31 日からの集中対策による人流の減少は十分ではなく、感染拡大が抑えられているとは言えず、首都圏や関西圏のように、今後、これまでにない感染拡大となる可能性が高いと考えられる。
- 現時点で県全体としてはステージⅢの状況にあるが、7つの参考指標のうち、上記 3 指標がステージⅣの水準にあり、今後短期間に悪化する可能性が高く、早晚ステージⅣに突入する蓋然性が極めて高い。

2 今後の感染拡大防止対策について

- 特に広島市の新規感染者数は県全体の約 60%を占め、周辺の市町へも影響を及ぼしていることから、集中対策を講じるエリアは、広島市の周辺地域にも拡大していく必要がある。
- これからが本番である。県民や事業者に対し、県をまたいでの移動を避ける、同居者以外とマスクを外しての会食を行わない、3密のうち一つの密でも避ける、外出機会の削減、テレワークの最大限の実施を改めて強く要請することが必要である。また、この対策はワクチン接種後も続けるよう呼びかける必要がある。
- 夏休み終了後、学校の再開に当たっては、体調のすぐれない児童生徒の登校を控えるよう改めて周知するなどより一層感染対策を徹底する必要がある。
- ワクチン接種の加速は必須であり、接種を希望する人に対するワクチンの確保と接種機会の提供を県に願います。特に 40 歳から 65 歳未満へ強く勧めるとともに、全ての人に対して、正しい情報の発信を行う必要がある。

3 その他

- 今後の感染の更なる拡大に対応できるよう、全ての医療機関が新型コロナの診療に協力することが不可欠である。
- 発熱等の症状のある疑い症例への診療機能を有する医療機関を確保し、併せて陽性者に対し、処方等の外来診療を提供する医療機関を増やす必要がある。
- 自宅療養者に対して、地区医師会と保健所等の行政機関が連携して、電話やオンライン診療を活用するとともに、宿泊療養施設も含めた健康観察の在り方も検討する必要がある。
- 急性期病院のうち、新型コロナの入院受入れをこれまで対応していない病院についても、今一度、受入れに向けて再検討を求め、一人でも多くの入院患者を受け入れる体制を構築すべきである。